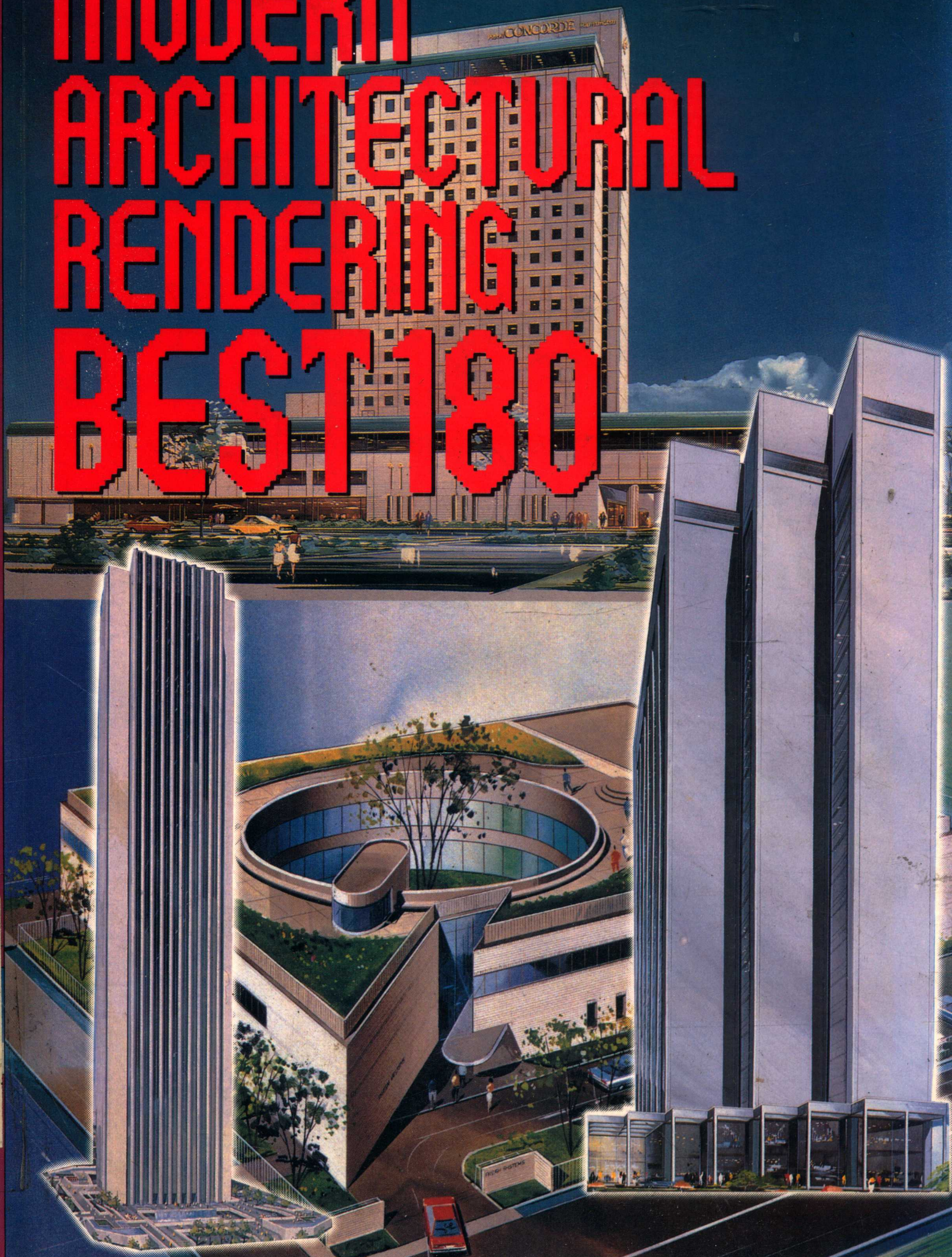


# MODERN ARCHITECTURAL RENDERING BEST 180



# MODERN ARCHITECTURAL RENDERING best 180

精選・建築パース180

MODERN ARCHITECTURAL RENDERING BEST 180

Edited by Graphic-sha Editorial Staff

Copyright © 1983 by Graphic-sha Publishing Co., Ltd.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced in any form without or by any means — graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping or information storage and retrieval systems — without written permission of the copyright owners.

All images in this book have been reproduced with the knowledge and prior consent of the artists concerned and no responsibility is accepted by producer, publisher or printer for any infringement of copyright or otherwise, arising from the contents of this publication.

This revised edition was published in 1994 by  
Graphic-sha Publishing Co., Ltd.  
1-9-12 Kudan-kita Chiyoda-ku Tokyo 102 Japan  
Phone: 81 3 3263 4318 Fax: 81 3 3263 5297

ISBN4-7661-0288-6

Printed in Hong Kong by Everbest Printing Co., Ltd.

# MODERN ARCHITECTURAL RENDERING best 180

精選・建築パース180

MODERN ARCHITECTURAL RENDERING BEST 180

Edited by Graphic-sha Editorial Staff

Copyright © 1983 by Graphic-sha Publishing Co., Ltd.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced in any form without or by any means — graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping or information storage and retrieval systems — without written permission of the copyright owners.

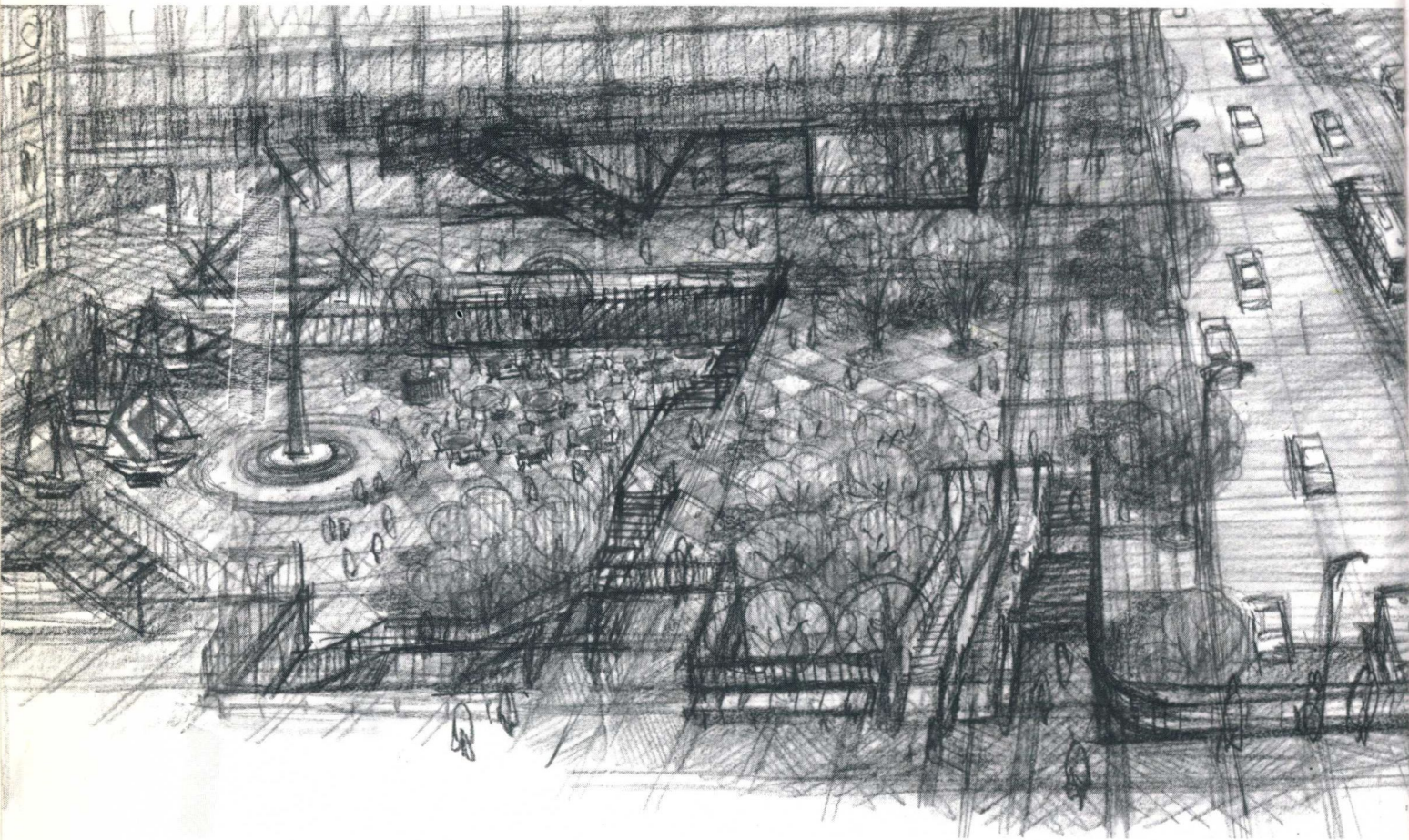
All images in this book have been reproduced with the knowledge and prior consent of the artists concerned and no responsibility is accepted by producer, publisher or printer for any infringement of copyright or otherwise, arising from the contents of this publication.

This revised edition was published in 1994 by  
Graphic-sha Publishing Co., Ltd.  
1-9-12 Kudan-kita Chiyoda-ku Tokyo 102 Japan  
Phone: 81 3 3263 4318 Fax: 81 3 3263 5297

ISBN4-7661-0288-6

Printed in Hong Kong by Everbest Printing Co., Ltd.

一枚のパスが物語るもの



一つの建築が完成されるまでに、一体どれほどの<sup>ドローイング</sup>図面が必要だろう。何百枚か何千枚か、それとも何万枚か、正直にそれを追いかけるなら多分キリはなく、それはいつも数えきれないほど膨大な量となるにちがいない。だとしても、それでなお完璧を期し難いところに、この世界の深遠さがある。その意味で、アランが、「ある立派な腕前の建築家がルアンのゴシック式会堂の完成に失敗した」理由を、「遠くから見れば調和の取れた尖塔」をたった「一枚の設計図をもって表し得る限りのものとして」(アラン著「芸術論集」桑原武夫訳・岩波書店・1941年) 描いてしまったからだ、

と言っているのは正しい。

人の運動によって絶えず姿態を変える建築の、容易には見究め難い本質は、例え数えきれぬほどの図面が用意されようとも、それが「紙の上に引かれた」ものである以上、それからだけでは説き明かせるものではない。いわんや「たった一枚の」それで「美しい建築物を建てるのは至難」であろうというこの論旨は、そして、建築へと向かう無数の視線について、建築家は常に謙虚であるべきであり、そのことに決して無思慮であってはならない、と示唆するものだ。逆説的だが、だからこそ建築家は、やはり何枚も何枚も描き



1950年

つづけねばならない、ということになる。もちろんそれが量だけの問題でないことは言うまでもない。明快な思想と信念を背景に持った上での行為でなければならないだろう。ところで、そういったことの正当性を認めざるを得ない反面、秀れた建築家が描く「たった一枚の」スケッチ、エスキスに、その意図するもののすべてが露わにされ、やがて実現されるべき大きな夢の具体的なかたちが的確にうかがいとれる場合もある。俗にパースと呼び慣らされている透視図 (Perspective) が、本当の有効性を発揮するのは、まさにこの時だと言える。

透視図法の開発は、ルネサンス時代、15世紀イタリアにおいて始まったとされているが、100を越す軍事砦を手がけた当時の築城家フランチェスコ・ディ・ジョルジョ・マルテイーニの描いたパースは、そうした中での傑作にはちがいない。そこには、敵の船を寄せつけることなく、しかも味方の船の出入りには自由な策が講じられているユニークな港湾が、二重の城壁を持つ城館と共に描かれているのだが、それがどうして「ユニーク」であるかがひと目で判別できるところで、こうした手法にもとづく説得力の強さを改めて思い知らされる。もっともその出来栄の巧拙にもよる



1950年



1950年



1950年



1950年

ことながら、言葉だけでは伝えることの不可能な部分も、ここでは強烈に訴えかけることができ、建築家からのメッセージは、きわめて明確だ。それだけに、マルティーニの知恵を多分に借用したにちがいない、かのレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿に遺る数々のパースにも同じことが言えるが、それらは、常に、それが可能性を大きく期待させるだけの魅力ある線や色の精度の中にあらねばならない、とそうも思わせられる。

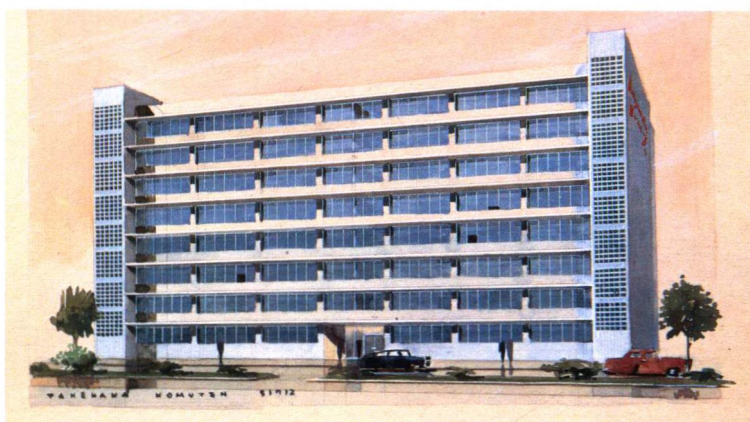
やがてパースはドイツやフランス、あるいはイギリスの数学者や美術家によって研究が重ねられ、18世紀末にその図

法が確立されるや、建築家には欠かせぬ武器となり、現代におけるある時期、その一枚ですべてが決せられるほどの威力を持つに至るのだ。

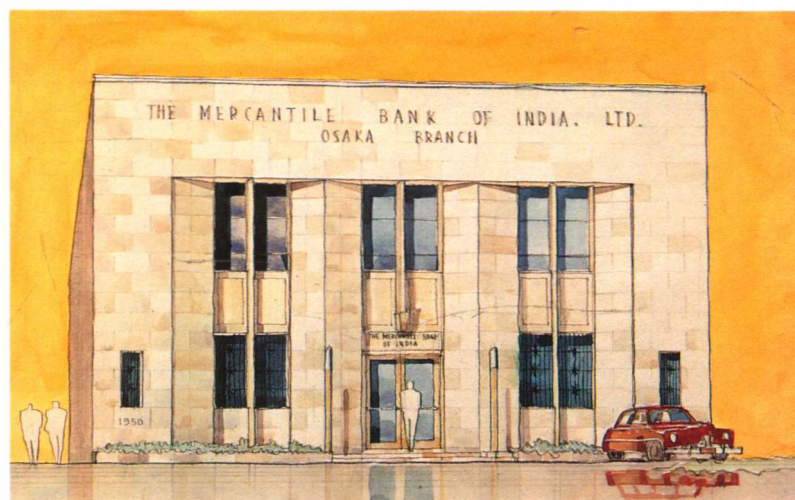
それで思い出されるのは1922年に企画され、発売されたシカゴ・トリビューン・タワー競技設計における、エリエル・サーリネン、アドルフ・ロース、ブルーノ・タウト、ワルター・グロピウスなど、当時は中堅、やがて巨匠となった建築家たちのパースである。ここでの応募要項がいかなるものであったか、詳細には知らないが、これが紹介されているおよそで、プランの掲載さえ無いのは何を意味して



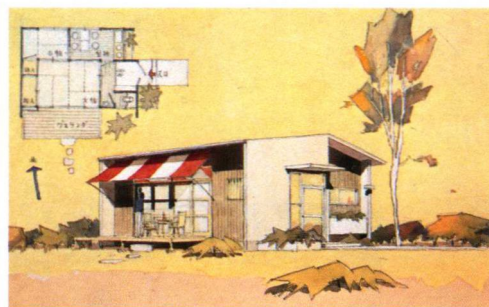
1950年



1951年



1950年



1950年

いるのか、といふかしげに、もう一度それらを見直してみたいのだ。

ロースは言う。「いかなる二次元的表現手段でも、この柱の効果は描出できない。滑らかな光沢のある立方体の表面と柱のフルーティングは、見る者を圧倒する。これは現代の遊びに飽きた時代においてさえも、驚きと感動を起こすであろう」(アリソン・スカイ&ミッシェル・ストーン編「幻のアメリカ建築」森田一敏訳・集文社・1981年)。

これは、すでにモニュメントとしての外へのかたちの上での発言であり、「二次元的表現手段でも」描出することので

きないものを、それでも「たった一枚の」パースに、最大限に舞わせた意図を託しての挑戦だ。その後「1967年10月にシカゴへ飛んだとき」に、シカゴ・トリビューンの競技設計に「ヒントを得て」、ただの「洗濯バサミを超高層ビルにしたて」てみせたアーティストのクラエス・オルデンバーグのそれも、もっともなことながらパース(絵)だけのものであり、それで「スプリング部分は、風が通り抜けると音をたてるトンネル」であり、「両足の間もまた巨大なトンネルであって、その内側にはブルーのガラスが入れられる」というのはともかく、「建物の側面に沿ったスプリングの



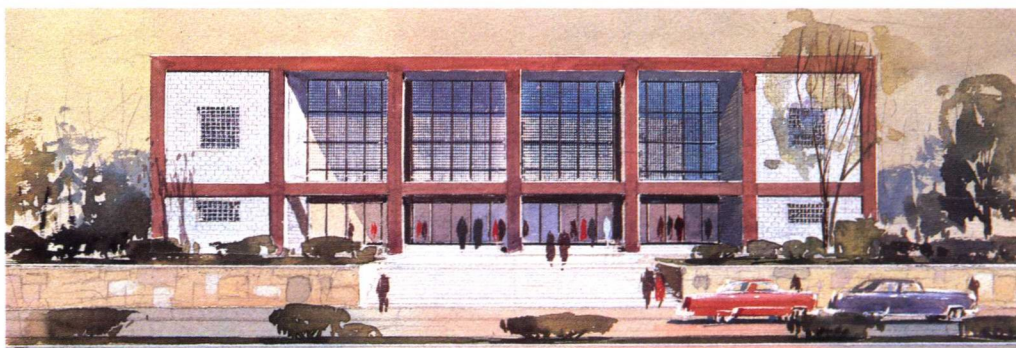
1951年



1952年



1953年



1953年

端部はガラス張りで、レストランとなっている」(前掲書)、などのささやかな解説だけで理解できるのがなんとも嬉しい。

建築家は「たった一枚」のパスだけでこと足りると思っ  
てはならない。またそう思うわけもないだろう。しかし、  
「たった一枚」のパスで物語り、そして表明できるほどの  
心意気が必要だ。



さて、ここに集録された竹中工務店のパス作品集に何が  
みられるだろうか。かつて「美術建築の竹中」と呼ばれたこ

ともあった、この建設業界の雄が、設計施工一貫を標榜して  
85年の歴史を刻み、品質管理に絶えず力を注ぎ、記憶に残る、  
いわゆる「竹中調」の数々の作品を創り上げてきたことは  
ご存知の通りだが、この道でも斯界にさきがけ、昭和26年  
に大阪本店、また昭和28年には東京支店（現本店）の、そ  
れぞれ設計部に、インテリア・デザイン部門の拡充とあわ  
せ、パスの専従者を配置したことに、その先見の明を知  
るのだ。

もちろんそれが、需要の増加に伴ってのことであったのに  
はちがいないが、従来からのテクニックの見直しなどもあ



1953年



1957年



1955年

わせ、新しい時代にマッチしたプレゼンテーション手法のあり方を、よりの確にみだし、かつ実施すべきはからいのもとでのことだった。そして専従者が、設計担当者として一体となったかたちでの作業であるべく編成されたのにも、それぞれの守備範囲を明確に位置づけた新しい組織づくりの中にありがちな、きわめて特異な姿勢と言うべきものだった。

やがて、このパートは北海道、東北、名古屋、広島、九州各支店にも及び意匠課を形成、爾来インテリア・デザイン及びパース制作に加え、美術関係の一切をも担当、庭園を

はじめとする外構や、ときに再開発における環境調整など、巾広い分野にわたって活動がつづけられてきた。

そこで、ここ7年ないし10年の間と限られ、また現存するものといった条件でのものではあれ、この作品集を眺めてみる時、それが概ね同社の設計によるものであることで、パースでみる竹中の歴史、あるいはデザイン姿勢の変遷としてもひもどけるところで大きな興味を持たれ、ある意味で建築界を通じての時代相を反映した貴重な記録としてとらえることができそうだ。



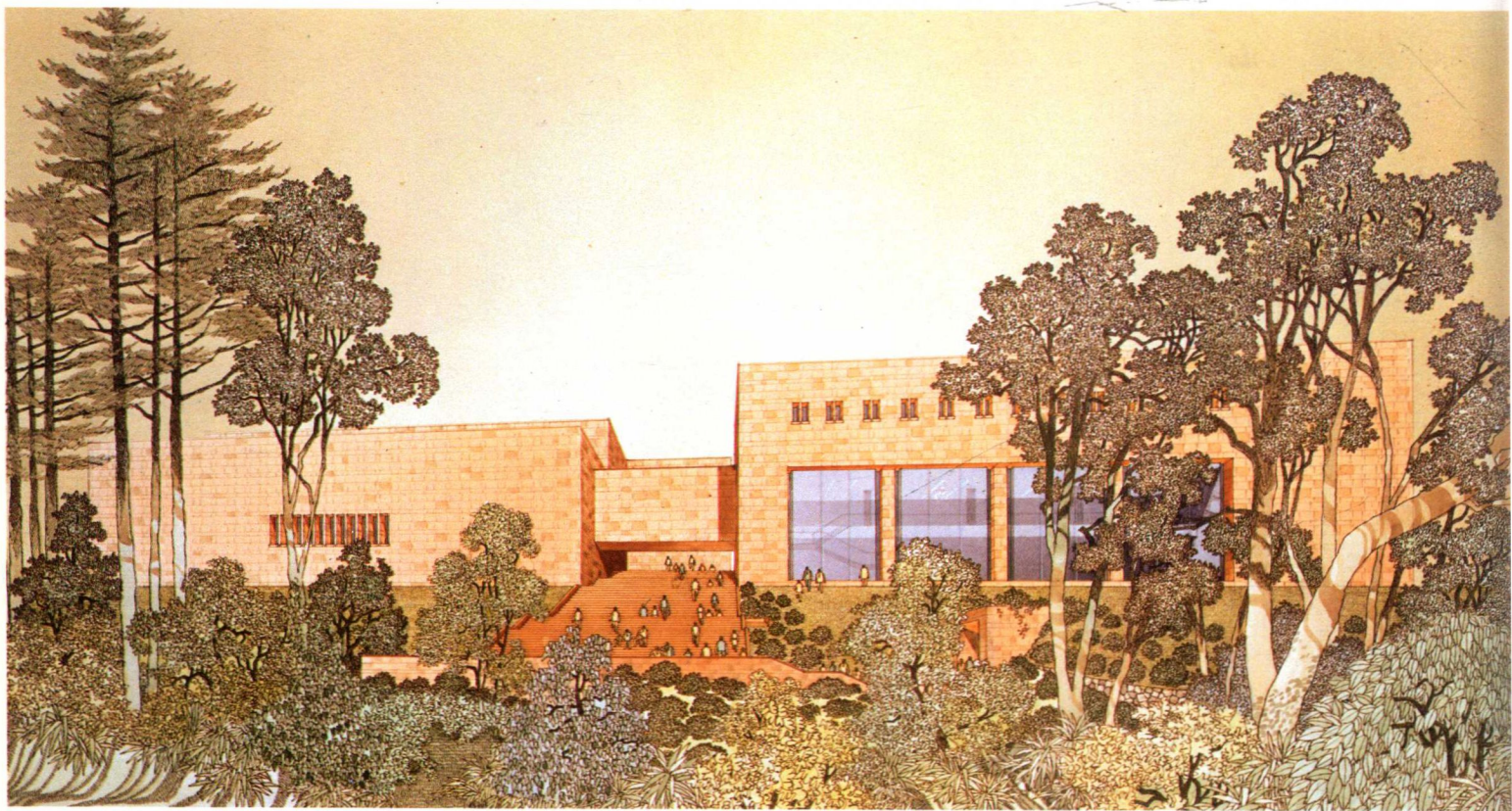
1963年

■  
今日、建築のプレゼンテーションに、パースが必ずしも重要な位置を占めていはいしない、という見方もある。ことはその内容こそが、問題であるのは、そして昔と変わらず断るまでもないが、それをうらづける種々のドキュメントが重視されつつあることとあわせ、模型によるものや、コンピューター・エイジにふさわしく、たとえばビデオなどを使用してのものがいよいよ活発に希まれ開陳されるようになってきているからだ。もちろんそれでパースを軽んじるものではない。ハイテックに対してのハイタッチという意味で

もそれは存続するだろうし、さきのデジタルな提案方法と併行して、やはり描きつづけられねばならないだろう。しかしここで再び、その態様について問いかけてみなくてはならないのも事実のようだ。これからのプレゼンテーション手法のあり方を、さらに大きな有効性のもとに発展させていくためにはどうあるべきか、建築家の心に関しての見直しと同時に、真摯に考究すべき時ではあろう。

# 作品

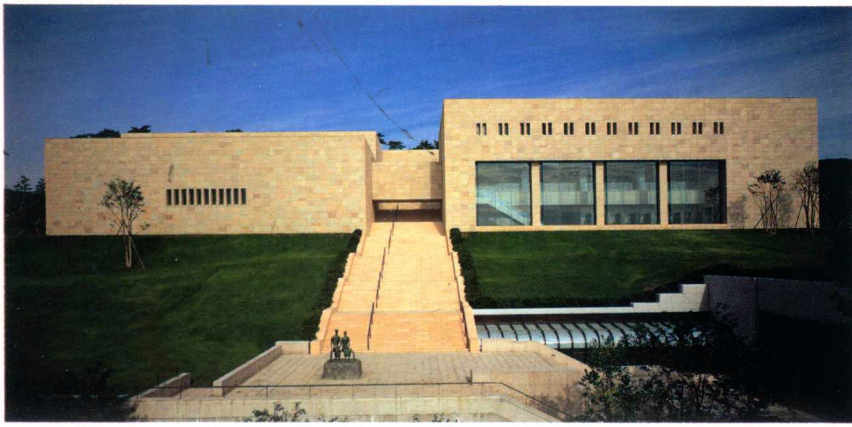
作品にはそれぞれ「物件名」「原画サイズ」(単位ミリ)「主な使用画材」を付し、また、主要な作品には、「作画のポイント」を記した。



MOA美術館・外観  
600×450  
ペン+インク・エアブラシ・水彩



MOA美術館・能楽堂  
600×450  
ペン+インク・エアブラシ・水彩



MOA美術館・展示室  
600×450  
ペン+インク・エアブラシ・水彩



Photo: Kohkyu Miwa

